第1学年音楽科年間指導計画

山梨大学教育人間科学部附属中学校

【音楽科の目標】
第1　目　標
　表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，音楽を愛好する心情を育てるとともに，音楽に対する感性を豊かにし，音楽活動の基礎的な能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深め，豊かな情操を養う。

【第１学年】
1　目　標
(1)音楽活動の楽しさを体験することを通して，音や音楽への興味・関心を養い，音楽によって　生活を明るく豊かなものにする態度を育てる。
(2)多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り，基礎的な表現の技能を身に付け，創意工夫　　して表現する能力を育てる。
(3)多様な音楽のよさや美しさを味わい，幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

	月	題　　材	ねらい	時数	共通事項 「A表現」「B鑑賞」の指導を通して次の事項を指導する。 ア 音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，形式，構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士，それらの関連を知覚，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受すること。	主な教材 A表現： 表現教材は次に示すもの ア 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち，指導のねらいに適切で，生徒にとって平易で親しみのもてるものであること。	主な教材 （イ）民謡，長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち，地域や学校，生徒の実態を考慮して，伝統的な声の特徴を感じ取れるもの （ア）我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち，我が国の自然や四季の美しさを味わえるもの	主な教材 B鑑賞： 鑑賞教材は，我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち，指導のねらいに適切なものを取り扱う。	A　表現 （1）歌唱 ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り，表現を工夫して歌うこと。	A　表現 （1）歌唱 イ 曲種に応じた発声により，言葉の特性を生かして歌うこと。	A　表現 （1）歌唱 ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り，表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	A　表現 （2）器楽 ア 曲想を感じ取り，表現を工夫して演奏すること。	A　表現 （2）器楽 イ 楽器の特徴をとらえ，基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。	A　表現 （2）器楽 ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り，表現を工夫して演奏すること。	A　表現 （3）創作 ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り，表現を工夫して簡単な旋律をつくること。	A　表現 （3）創作 イ 表現したいイメージをもち，音素材の特徴を感じ取り，反復，変化，対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。	B鑑賞 ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き，言葉で説明するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。	B鑑賞 イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて鑑賞すること。	B鑑賞 ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り，鑑賞すること。	評価規準 音楽への関心・意欲・態度	評価規準 音楽的な感受や表現の工夫	評価規準 表現の技能	評価規準 鑑賞の能力	備考
前期	4 5	リズミックな音楽とメロディックな音楽を感じ取ろう	1曲の中で，旋律の「はねる感じ」と「ゆったりとした感じ」の違いを表現する。リズムの動きのある音楽の部分とフレーズを意識したメロディックな音楽の部分について理解し，表現の方法を習得する。	5	旋律・リズム	＜歌唱曲＞ 「明日という大空」 ＜鑑賞曲＞ くるみ割り人形より「行進曲」 アルルの女より「メヌエット」			○							○			言葉の抑揚，アクセント，リズム，語感による特性，濁音，鼻濁音などの表現の工夫の仕方に関心をもっている。	言葉の抑揚，アクセント，リズム，語感による特性，濁音，鼻濁音などの表現の工夫の仕方を感じ取って歌唱表現を工夫している。	言葉の抑揚，アクセント，リズム，語感による特性，濁音，鼻濁音などの表現の工夫の仕方に気をつけて歌唱している。	リズムの働き及び効果と，楽曲の雰囲気や曲想とのかかわりを意識し，楽曲を聴き取っている。	
	5	強弱の変化をつけてフレーズを表現しよう	フレーズの表現方法を学ぶ。1つのフレーズにおいて，cresc.とdecresc.をつけることにより，旋律を豊かに表現できることを知る。また，フレーズごとにも大きさ（ｆやｐなど）の変化をつけることで表現の幅が広がることを理解する。	5	旋律・強弱	＜歌唱曲＞ 「主人は冷たい土の中に」 ＜鑑賞曲＞ 「アッピア街道の松」 「トルコ行進曲」 （モーツァルト） 「トルコ行進曲」 （ベートーヴェン）他	○								○			強弱の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に関心をもっている。	強弱の働きを知覚し，強弱の効果を感じ取って表現を工夫している。	強弱の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に気を付けて歌唱表現をする技能を身に付けている。	強弱やその対比によって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を意識して聴き取ったり聴き分けたりしている。	
	6	速度の変化をつけて表現しよう	フレーズの表現方法を学ぶ。１つのフレーズにおいて強弱の変化をつけるとともに，速度の変化をつけることにより音楽の表現に深まりがでることを学ぶ。	5	旋律・速度	＜歌唱曲＞ 「花の街」 ＜鑑賞曲＞ 「むこうむこう」	○								○			速度の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に関心をもっている。	強弱の働きを知覚し，速度の効果を感じ取って表現を工夫している。	速度の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に気を付けて歌唱表現をする技能を身に付けている。	速い，遅いや徐々に変化する速度によって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を意識して聴き取ったり聴き分けたりしている。	
	6 7	３部合唱を歌おう	合唱の編成を理解して,声を合わせる楽しさを味わう。さらにこれまで学習した強弱および速度の変化の要素を用いて学習を進める。	6	テクスチュア	＜歌唱曲＞ 「遠い日の歌」 ＜鑑賞曲＞ 昨年度の合唱コンクールのＤＶＤより			○									各声部の旋律を意欲的に歌っている。	他の声部との重なりを意識しながら，歌唱表現を工夫している。	他の声部との重なりを意識しながら歌唱表現をしている。		
	8 9	自分たちのイメージに合った音楽表現をしよう	これまで学習した速度および強弱の変化の要素を用いて学習を進める。歌詞のイメージをとらえ，より豊かな表現にするためにはどのような音楽的工夫をすることがよいのかを歌唱表現を通して理解する。	5	旋律・速度・強弱	＜歌唱曲＞ 「大きな古時計」 ＜鑑賞曲＞ 「大きな古時計」「花の街」	○								○			楽曲のフレーズや全体の構成に関心をもって表現することに意欲的である。	曲想にふさわしい強弱及び速度の変化を設定している。	楽曲において強弱や速度の変化を付けた歌唱表現の技能を身に付けている。	曲想のイメージを感じ取りながら,強弱及び速度の要素がかかわりあっていることを意識している。	